みずかん通信

令和３年 **夏** 発行

２０２１年の夏です。厳しい暑さが続いておりますが、皆様はいかがお過ごしですか？昨年に引き続き、今年もマスクを着けたまま迎える夏となってしまいましたが、本来はオリンピック翌年の夏として、新国立競技場はじめ、日本各地で大規模コンサートやイベントやお祭りが開催されていたのでしょうか。まるでパラレルワールドのような話ですが、それが今までの暮らしだったわけですね。緊急事態宣言は解除されたものの、早くマスクを外して遊べる夏になってほしいものです。この状況もいつまで続くことやら…。

さて、上の写真は山口県周南市鹿野を流れる、錦川水系渋川のほとりに建てられている石碑です。ここに掘られている言葉は２００６年に小児がんのため１５歳の若さでこの世を去った有國遊雲（ありくにゆううん）くんが生前に残したもので、平成１６年度河川愛護月間標語の最優秀賞を受賞しました。その言葉に感銘を受けた市民の方が、遊雲くんの地元である渋川のほとりに石碑を建てたのです。私事ですが実は筆者も周南市（の海辺の田舎町）出身で、子どものころは毎年夏になると鹿野に住む親戚を訪ねており、渋川でも何度も遊びました。この標語も子どもの頃から耳にしていまして、この度車の点検で地元に戻った際、鹿野に寄ってみた次第です。この日はあいにくの曇り空でしたが、それでも晴れ渡る澄んだ青空や太陽光の乱反射する清々しい渋川の流れを思い出すことが出来ました。

川は上流から海に向かって常に流れ続けています。その流れはやがて海から空へ、雲となって広がっていき、また地上に雨が降り注ぎます。遊雲くんは「川は地球のすべてのものとつながりがある」との思いでこの言葉を作ったそうです。確かに川なくしては、人々はおろか、どんな生き物も生きていくことが出来ません。また、川を埋めたり、雨水を海へ流すだけの水路的な作りに変えてしまうと、山が蓄えている栄養が流れずに貧栄養の海になってしまい、漁業をはじめ様々な産業に悪影響を及ぼしてしまいます。遊雲くんの言う通り「川は地球すべてのものとつながっている」のです。もちろんこれは川だけでなく、海が無くなっても、山が無くなっても同じことが言えます。

近年はＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）が盛んに叫ばれ、様々な企業でも取り組みが強化されており、当館でも「海の豊かさを守ろう」をはじめ、いくつかの目標を掲げています。ＳＤＧｓ計１７のゴールは、それぞれ独立したものに見えますが、社会・経済・環境など互いに相関しているものであり、いずれかが欠けると理想的なゴールを迎えることが出来なくなってしまいます。

美しい川だからこそ、美しい空をうつすことができるわけで、そんな景色を残すためにできることをぜひ考えてみてください。

～飼育員の戯言～「干潟で大奮闘」

水環境館では約７０種４００匹の水生生物を飼育・展示しています。それらはほとんど紫川流域で採取したものですが、紫川での個体数が少ない生き物や採取が難しい生き物は、近隣の水系から採取しています。

当館まなびエリアにある円形水槽では、干潟に生息する生き物を展示しており、そのどれもが紫川河口部に生息する生き物ですが、紫川の河口は街のど真ん中に位置しており、川に入ろうもんなら橋の上から覗き込まれメチャクチャ恥ずかしいので、大抵市内の別の河口で採取しています。（とはいえ今年の元旦にも初詣客に怪しまれながら川遊びをしているのでそんなに気にしていないのですが…。）

川に降りると水上を走るように素早く逃げ回る姿が見えます。干潟のアイドルトビハゼです。沖縄県から東日本にかけて広い地域に生息する魚ですが、この河口でもたくさん見ることが出来ました。

通常トビハゼ採取には軽くて大きめの虫取り網が適していますが、この時は丈夫で重たい網しか持っていませんでした。しかし、今年まだ2匹しか出会えていないトビハゼに会いたくなり、重い網を振り回して何とか採取できました。

有明海に生息するムツゴロウと混同され、自然では見られない魚と思っておられる方も多いですが、実はとても身近なところに住むカワイイ魚です。皆さんもぜひ河口を覗き込んでみてください。

わりと的確にアドバイスしてくれそうな顔

トビハゼが生息する河口

水難事故を防いで楽しい夏にしよう！

梅雨に似合わず連日暑い日が続いていますが、ここ数日の報道でもあるように日本各地で水難事故が発生しています。そのなかには救命胴衣を身に着けていなかったり、水辺でふざけあっていたために起きたものもあります。水遊びはドキドキハラハラの連続でとっても楽しいものですが、常に危険と隣り合わせでもあります。楽しい夏にするためにも水難事故を起こさないように気を付けてください。なによりも大切なのは「大人の人に見てもらっておくこと」です。

命を守る救命胴衣「ライフジャケット」

ライフジャケット（大人用）

ライフジャケットは落水した時に浮力を保ってくれるため、ぜひ着用してください。また、落水以外にも転倒時の衝撃吸収や低体温防止などにも効果があります。お腹まわりとその下にあるベルトをしっかり締めて体に密着させます。水に濡れると膨らむものや釣り用のものがありますが、できる限り水遊び専用のものを選びましょう。

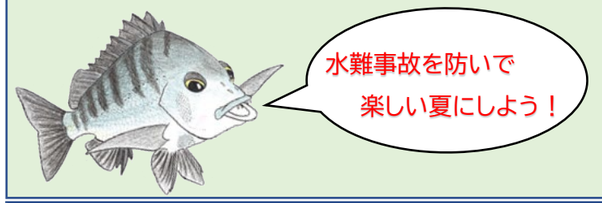
ライフジャケット（子ども用）

子ども用のライフジャケットには「股ひも」と呼ばれる紐がついており、股下に通して締めることで落水時にすっぽ抜けるのを防げます。メーカーによって小児用と児童用があるので、自分の体に合ったサイズのものを選びましょう。

転倒時に頭を守る「ヘルメット」

コケが生えて滑りやすいところや、岩がゴロゴロしている場所はヘルメットがあると安心です。水遊び用のものは穴が開いており、水の流れを受け流すことで首が絞まるのを防いでくれます。大人用と子ども用がありますが、後頭部にベルトが付いているタイプは、ある程度のサイズ調整が可能です。

これら以外にも日除けや虫除けのため長袖長ズボン＆軍手の着用、怪我を防ぐためにマリンブーツかスニーカータイプの靴だと望ましいです。ただし、これらを着用していれば命が助かるというわけではありません。水遊びをするときは必ず「大人の人と一緒に行く」ことを心がけてください。また、万が一事故が起きたときは、二次災害を防ぐため、慌てずに救助を呼びましょう。



かいくんの おさかなトーク ～カマツカ編～

新幹線のようなフォルムの、底生生活に特化したコイ科の魚類です。紫川では主に中流域に生息しており、シュノーケルを着けて泳ぐと川底を這うようにして素早く泳ぐ姿が見られます。

この魚はもともと東北～四国、九州と日本に広く生息するとされていましたが、２０１９年に地域ごとの形態的な特徴や遺伝的な差から３種類に分かれることが分かりました。九州に生息するのは正真正銘「カマツカ」であり、新たに和名が付けられた「スナゴカマツカ」は主に東日本、「ナガレカマツカ」は山口県の錦川水系をはじめ西日本に広く分布します。

一見するとコイの仲間に見えないかもしれませんが、それぞれの鰭の位置や口元、顔つきを見るとたしかにコイの特徴を持っています。スタイリッシュで洗練されたようなカッコよさがありますが、飼育すると痩せやすく、健康な体形で長く飼育することが難しい魚でもあります。水環境館では通常の観賞魚用飼料の他にも、カボチャやホウレンソウなどの野菜を混ぜた餌を与えており、おかげで同居しているヤマトシマドジョウ（同じく痩せやすい）とともに健康に飼育が出来ています。

砂に潜りこんで隠れることもあり、捕まえるにはコツが要りますが、みなさんもぜひカマツカに会いに出かけてみませんか？

福田海輝（かいくん）

日本産魚類と全国の市民会館が好き。最近は背伸びで肩を痛めたり、白いシャツにコーヒーをぶちまけながら暮らしてます♪

水環境館 RIVER MUSEUM

住 所 / 北九州市小倉北区船場町 1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日（長期休暇期間中除く）・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体

http://mizukankyokan.jp